

# 無線 LAN カードユーティリティガイド

## 目次

はじめに .....	2
1. Logitech 無線 LAN クライアントユーティリティの起動 .....	3
2. 設定画面の説明 .....	4
3. 新規に手動で通信設定を行う場合 .....	8
4. 設定したプロファイルで通信を行う方法 .....	10
5. プロファイルを修正する方法 .....	11
6. プロファイルを削除する方法 .....	12
7. TCP/IP の設定を確認する方法 .....	13
8. 本製品の取り外し .....	17
9. 補足説明 .....	18
10. アンインストール .....	21
著作権等について .....	23

## はじめに

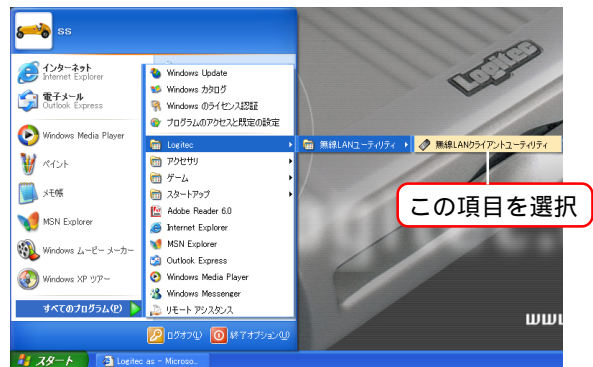
---

この「無線LANカードユーティリティガイド」では、弊社製無線LANカードLWN-A54CBS 設定用ユーティリティ「Logitec 無線LANクライアントユーティリティ」の使い方についてご説明いたします。設定を行う前に付属のLogitec無線LANクライアントドライバ・ユーティリティをインストールしておいてください。

- ・「Logitec 無線LANクライアントユーティリティ」は弊社製無線LANカード「LWN-A54CBS」でのみ動作します。その他の無線LANカード、無線LANアダプタではご使用になれません。
- ・弊社製無線LANアクセスポイントとスマート認証モードまたは指紋認証(BIO)モードで通信を行う場合は、「Logitec無線LANカードスタートアップガイド」内の「3.1.1 スマート認証モード、指紋認証(BIO)認証モードを使用した設定」をご参照ください。この場合、本ユーティリティガイドを参照して設定を行う必要はありません。ただしネットワーク環境に合わせてTCP/IPの設定を行う必要がある場合は、本ユーティリティガイドの「7 .TCP/IPの設定を確認する方法」を参照して必要な設定を行ってください。
- ・本無線LANカードを使用して手動設定でアクセスポイントと通信を行う場合は、あらかじめアクセスポイント側の設定(SSID、暗号キーなど)を確認したうえで本設定ガイドをお読みください。
- ・他社製アクセスポイントとは、手動設定により通信を行うことができます。

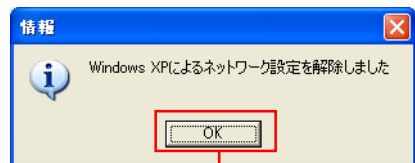
# 1. Logitech 無線 LAN クライアントユーティリティの起動

設定用パソコンから「スタート」 - 「プログラム」(Windows XP の場合は「すべてのプログラム」) - 「Logitech」 - 「無線 LAN ユーティリティ」 - 「ロジテック無線 LAN クライアントユーティリティ」と選択してください。



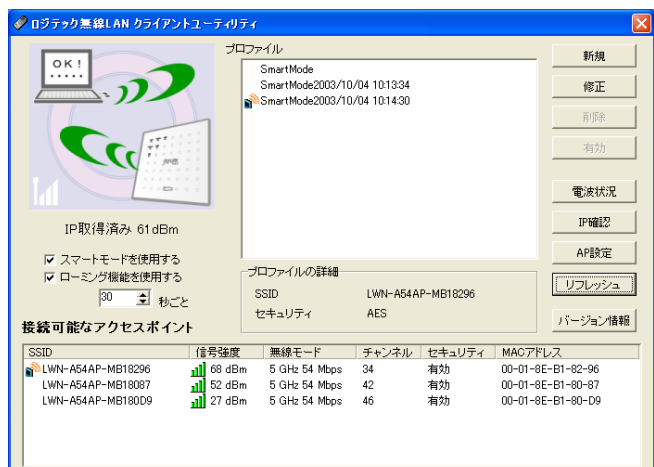
画面は Windows XP のものです

Windows XP の場合、右のようなメッセージが表示される場合があります。そのまま「OK」をクリックしてください。表示されない場合は、手でワイヤレスネットワーク設定が変更してある必要があります。詳しくは「無線 LAN カード スタートアップガイド」をご参照ください。



「OK」をクリック

ロジテック無線 LAN クライアントユーティリティが起動します。



## 2. 設定画面の説明

### メイン画面

接続状態が表示されます。  
(次ページ参照)

現在選択されているプロファイル  
の詳細が表示されます。

スマート認証機能(「9.補足説明」参照)ローミング機能(「9.補足説明」を参照)を有効にする場合はこのチェックボックスにチェックを入れます。

ローミング時にアクセスポイント  
を検索する間隔を指定できます。

プロファイル欄：登録されているプロ  
ファイル(設定情報)が表示されます。プ  
ロファイルは最大30まで登録できます。

IP取得済み 61 dBm

スマートモードを使用する  
 ローミング機能を使用する

30 秒ごと

接続可能なアクセスポイント

SSID	信号強度	無線モード	チャンネル	セキュリティ	MACアドレス
LWN-A54AP-MB18296	68 dBm	5 GHz 54 Mbps	34	有効	00-01-8E-B1-82-96
LWN-A54AP-MB18087	52 dBm	5 GHz 54 Mbps	42	有効	00-01-8E-B1-80-87
LWN-A54AP-MB180D9	27 dBm	5 GHz 54 Mbps	46	有効	00-01-8E-B1-80-D9

プロファイル欄: SmartMode, SmartMode2003/10/04 10:13:34, SmartMode2003/10/04 10:14:30

プロファイルの詳細: SSID: LWN-A54AP-MB18296, セキュリティ: AES

ボタン: 新規, 修正, 削除, 有効, 電波状況, IP確認, AP設定, リフレッシュ, バージョン情報

このボタンから、各種の設定や  
設定の確認を行います。

通信可能範囲にあるアクセ  
スポイントが表示されます。



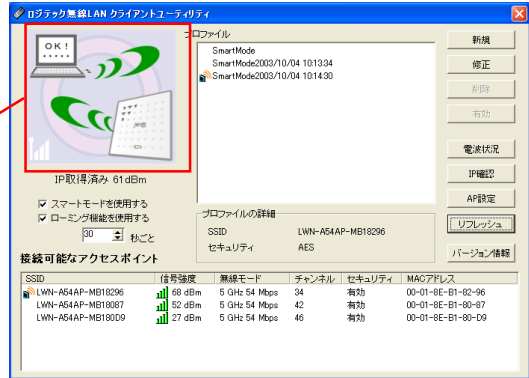
### ポイント: 「AP 設定」ボタンについて

- ・ユーティリティのメイン画面右側に「AP 設定」というボタンがあります。このボタンは、アクセスポイントの設定を行う際に、アクセスポイントのIPアドレスを検索するために使用します。ボタンは、初期設定では弊社製無線LANアクセスポイントに同梱された無線LANカード(管理者用カード)しか使用できません。
- ・単品で無線LANカードをご購入された場合、初期設定ではカードにユーザとしての権限が設定されており、「AP 設定」ボタンは使用できないようになっております。「AP 設定」ボタンを有効にしたい場合は、アクセスポイントの設定画面からカードの権限を管理者に変更しなければなりません。権限の変更方法については、LWN-A54APSの「アクセスポイント設定ガイド」をご参照ください。

## 接続状態について

メイン画面の左上の部分で、アクセスポイントとの無線接続の状態がわかります。

この部分で確認します。



通信が確立されていません。この場合以下の点をご確認ください。

- ・無線LANカードの接続状態をご確認ください。
- ・設定情報や電波状況をご確認ください。



アクセスポイントの確認を行っています。この時はアクセスポイントと認証を行っています。そのまましばらくお待ちください。



電波状態良好

アクセスポイントと通信が確立されると、左のような画面になり、電波状態に応じて色が変わります。Windows XP、2000では無線ネットワークの状態に応じて以下の2つのメッセージが表示されます。

### IP 取得済み

このメッセージが表示された場合は、パソコンのIPアドレスおよびデフォルトゲートウェイのIPアドレスが設定され、アクセスポイントを含む社内LANネットワークとの通信が確立しています。通常は、このように表示されると外部ネットワークとの通信も可能となります。



電波状態普通

ご使用のパソコンに複数の通信カードがある場合(たとえば、1つは有線LANで、もう一つが本製品の場合等)「IP取得済み」と表示されてもインターネットに接続できないなど、通信ができない場合があります。これは、有線LANカードのLANケーブルが抜かれていてもOSの通信経路が有線LANカードになっており、有線LANカードの設定情報が残っていて、パケットが有線側に流されているためです。このような場合は、いったんログオフするか、システムを再起動してみてください。それでも通信が行えない場合は、「無線LANカード スタートアップガイド」内の「3.6 トラブルシューティング」をご参照ください。



電波状態やや弱い

### 無線接続済み

このメッセージが表示される場合は、アクセスポイントとの通信は確立されていますが、パソコンのIPアドレスが取得できていません。この場合はインターネットやWAN等の外部ネットワークへアクセスを行うことができません。



電波状態悪い

DHCPサーバがある環境で、パソコンがIPアドレスを自動的に取得する設定になっている場合は、しばらくするとIP取得済みというメッセージに変わります。メッセージが変わらない場合は、「7 .TCP/IPの設定を確認する方法」を参照してIPアドレスの設定を行う必要があります。

## 詳細設定画面

詳細設定はプロファイルを新規に作成する場合または、設定したプロファイルを確認、修正する場合に使用します。この画面を表示させるにはメイン画面より、「新規」ボタンまたは修正したプロファイルを選択して「修正」ボタンをクリックします。

1. 一般タブ：一般タブで表示されている項目の機能は以下の通りです。

### プロファイル名

ここで設定した内容をお好きな名前を付けてプロファイルとして登録します。プロファイルを登録しておけば、次回からは起動画面のプロファイルの一覧から設定したプロファイル名を選択して有効ボタンをクリックすれば、設定したアクセスポイントに接続できるようになります。プロファイル名は半角英数字記号40文字以内で設定してください。英字の大文字、小文字は区別されます。

### SSID (Service Set Identifier)

アクセスポイントのSSIDを入力します。メイン画面から接続するアクセスポイントを選択してダブルクリックした場合は、自動的に入力されています。半角英数字で記号32文字以内まで入力可能です。英字の大文字、小文字は区別されます。

### 省電力モード

「OFF」「通常」「最大」から選択してください。

「OFF」の場合は省電力機能を使用しません。

「通常」の場合は環境に応じて省電力のON/OFFを切り替えます。

「最大」の場合、本製品は省電力モードで動作します。この設定を選択した場合、本製品への電源供給が抑えられるので、ノートパソコンをバッテリーで使用している場合などに、省電力機能を使用しない場合に比べて、長く使用できます。ただし、環境により通信状況が悪くなる場合があります。

### 802.11b プリアンプル (同期信号)

802.11b通信時に、アクセスポイントとの同期を取る信号の長さを設定します。「Short&Long」(72  $\mu$ s)を選択すると通信が確立されるまでの時間が早くなります。ただし、電波環境によっては通信が確立されにくい場合があります。

「Long Only」(144  $\mu$ s)を選択すると、通信が確立されるまでの時間は長くなりますが、互換性や通信を重視する場合に使用します。

### QoS (Quality of Signal)

QoSとは音声や映像などのデータを途中で途切れることのないように、一定の帯域を保証するための方式。ここではこの方式のON/OFFを切り替えます。

### 送信出力レベル

本製品から出力する通信用電波の信号のレベルを設定できます。

### 無線モード

本製品の通信モードを802.11a通信、802.11b通信のどちらで行うかを選択できます。また、「Auto」に設定しておけば、通信可能な範囲内に802.11aと802.11bの両アクセスポイントが混在する環境では、最大のスループット (Mbps) を得られる方 (多くの場合802.11a) を自動的に選択します。



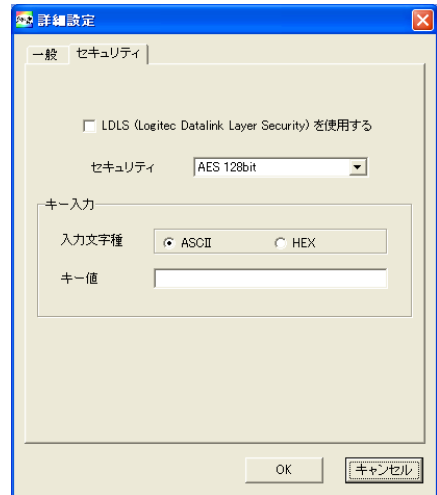
## 2. セキュリティタブ：セキュリティタブで表示されている項目の機能は以下の通りです。

### LDLS ( Logitech Datalink Layer Security ) を使用する

通信確立時にLDLS 認証を行う場合は、このチェックが ON になります。

LDLS認証とはアクセスポイントが無線LANカードに公開鍵およびローカルな電子証明書を発行し、この鍵を元にアクセスポイントとクライアントの相互認証を行う仕組みです。この認証をデータリンク層で行うためDLS 認証と呼びます。この認証方式はロジテック独自のものです。

LDLS 認証は、弊社製無線 LAN アクセスポイントとスマートモードまたは指紋認証 ( BIO ) モードで通信する場合しか行えませんが、他社製アクセスポイントと通信する場合など手動での設定が必要な場合は、チェックを外してください。



### セキュリティ

暗号キーを選択します。本製品は AES 128bit、WEP64/128/152bit に対応しています。接続先のアクセスポイントの設定にあわせてください。

スマート認証モードや指紋認証 ( BIO ) モードの場合は、自動的に設定されています。

キー入力 : 下の欄で暗号キーの値を入力します。

### 入力文字種

ASCII または HEX から選択します。通常は ASCII を選択してください。ASCII コードに対応していないアクセスポイントに接続する場合には HEX を選択します。

### キー値

暗号キーの値を入力します。この値は通信するアクセスポイントと同じに設定してください。

入力文字数

	ASCII	HEX
AES 128	16	32
WEP 64	5	10
WEP 128	13	26
WEP 152	16	32

### 3 . 新規に手動で通信設定を行う場合

新規に手動で通信設定を行う場合は、以下の手順をご参照ください。



#### ご注意

以下の手順は、手動設定で設定したプロファイルを通信に使用する場合のものです。弊社製アクセスポイントへスマート認証モードまたは指紋認証 ( BIO ) 認証モードで通信を行う場合は、本手順ではなく、「無線 LAN カードスタートアップガイド」に記載された方法で行ってください。

#### 設定手順

クライアントユーティリティのメイン画面で、「スマートモードを使用する」のチェックを外して「新規」ボタンをクリックするか、「接続可能なアクセスポイント」欄から通信を行いたいアクセスポイントを選択してダブルクリックしてください。

このボタンをクリックするが、

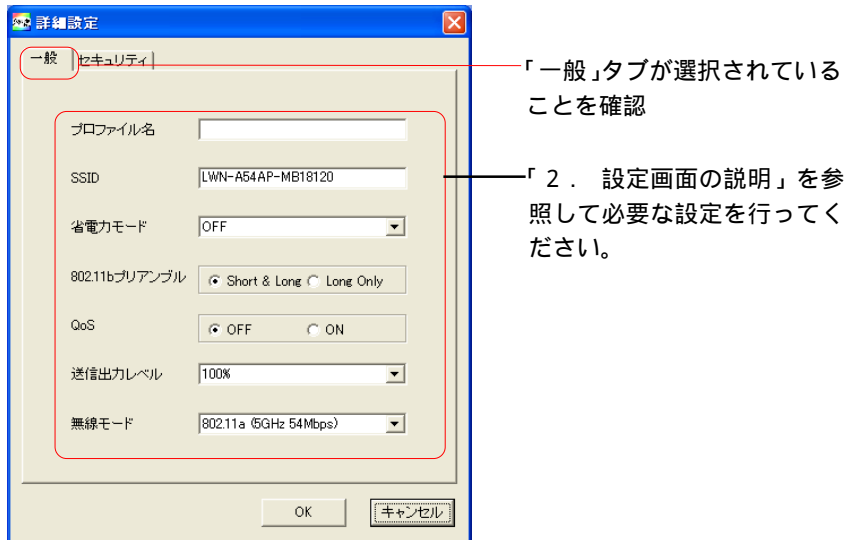
チェックを外します。

SSID	信号強度	無線モード	チャンネル	セキュリティ	MACアドレス
LWN-AS4AP-MB18120	34 dB	5 GHz 54 Mbps	34	有効	00-01-8E-B1-81-20

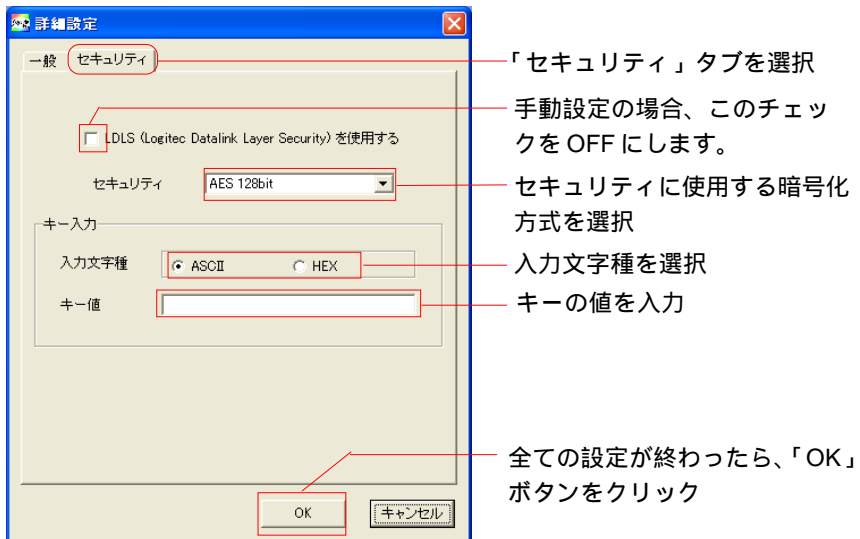
通信設定をしたいアクセスポイントを直接選択してダブルクリック



以下の画面が表示されます。はじめに、一般タブ内の項目を設定してください。各項目の内容については「2. 設定画面の説明」をご参照ください。

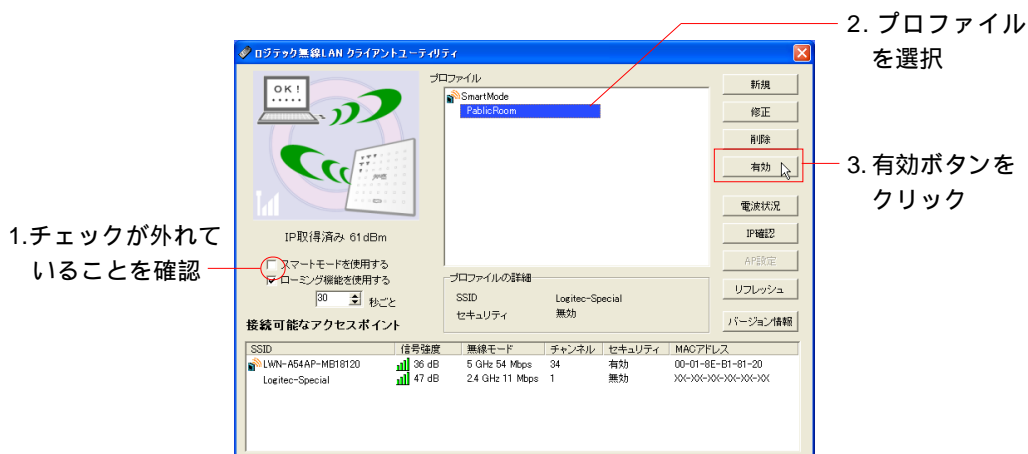


次に「セキュリティ」タブをクリックしてください。以下の画面が表示されるので、セキュリティに関する設定を行います。各項目の詳細については「2. 設定画面の説明」をご参照ください。設定が終わったら「OK」ボタンをクリックすると、新しいプロファイルとして登録されます。



## 4 . 設定したプロファイルで通信を行う方法

新しく設定したプロファイルを利用して通信を行う場合は、クライアントユーティリティのメイン画面で、「スマートモードを使用する」のチェックが外れていることを確認後、通信を行いたいプロファイルを選択して、「有効」ボタンをクリックしてください。



設定が正しい場合は、自動的に通信が確立されます。設定情報に誤りがある場合は「5 . プロファイルを修正する方法」を参照して、設定の修正を行ってください。また、通信が確立しているにもかかわらず、ネットワークに参加できない場合は、IPアドレス等の設定が正しくされているかを確認してください。ユーティリティ上からTCP/IPの設定を確認するには、「7 . TCP/IP の設定を確認する方法」をご参照ください。



### ご注意

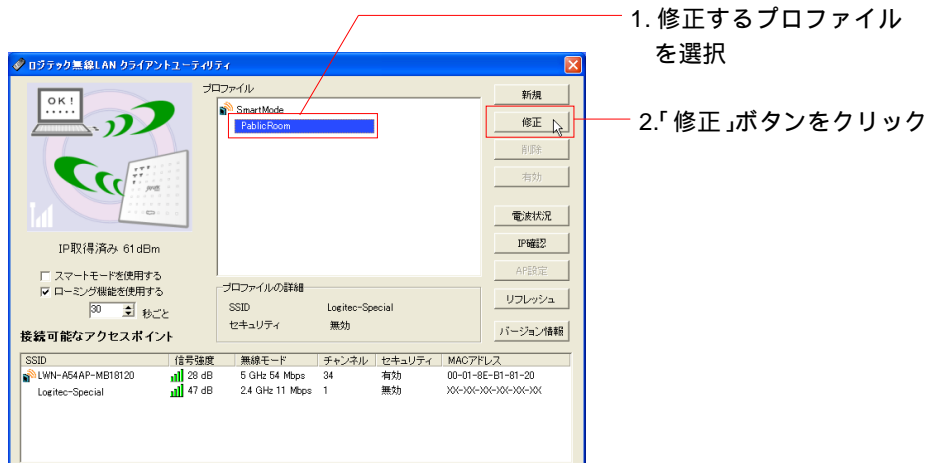
上記手順は、手動設定で設定したプロファイルで通信を行う場合の手順です。手動設定したプロファイルから、弊社製アクセスポイントへスマート認証モードまたは指紋認証 (BIO) 認証モードでの通信に戻す場合は、次の2つの方法があります。

1. いったんユーティリティを終了し、パソコンからクライアントカードを取り外して再度接続する (本製品はパソコンへ接続時に優先的にスマート認証モード、指紋認証 (BIO) 認証モードのプロファイルを選択するように設計されています)
2. メイン画面で「スマートモードを使用する」のチェックボックスにチェックを入れ、プロファイル欄から「SmartMode」を選択して、「有効」ボタンをクリックする。(スマート認証モードまたは指紋認証 (BIO) 認証モードにかかわらずプロファイル名は「SmartMode」となります。)

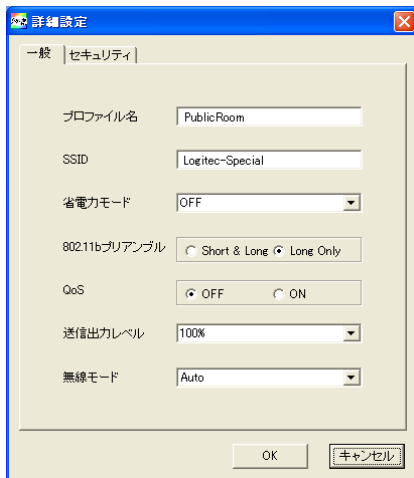
## 5. プロファイルを修正する方法

プロファイルを修正する場合は、以下の手順をご参照ください。

クライアントユーティリティのメイン画面で、修正するプロファイルを選択し、「修正」ボタンをクリックしてください。



詳細設定画面が表示されます。「一般」タブまたは、「セキュリティ」タブを選択し、必要な箇所を修正し、終了後「OK」ボタンをクリックしてください。設定画面内の項目については2. 設定画面の説明をご参照ください。



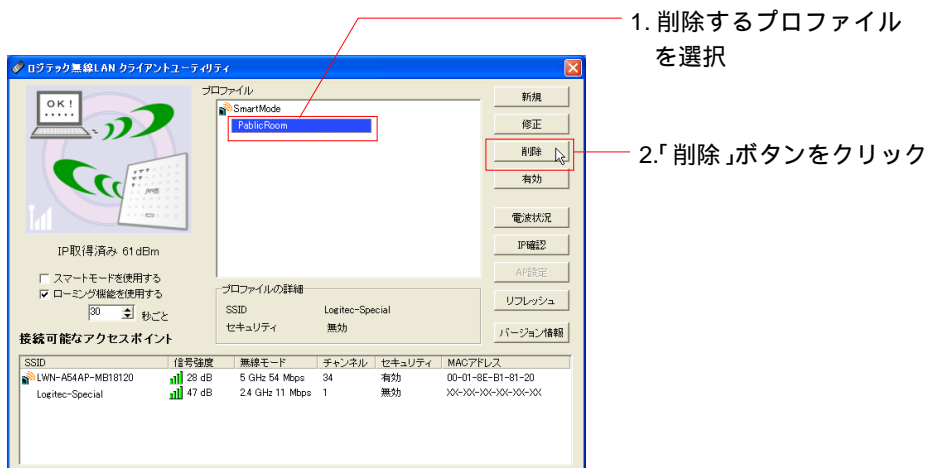
### ご注意

スマート認証モードや指紋認証 (BIO) モードの暗号キーが変わった場合は、いったんユーティリティを終了し、パソコンから無線 LAN カードを取り外して、アクセスポイントに直せる無線 LAN カードををセットして再度認証を行ってください。これらの認証方式の場合、暗号キーの変更はユーティリティからは行えません。

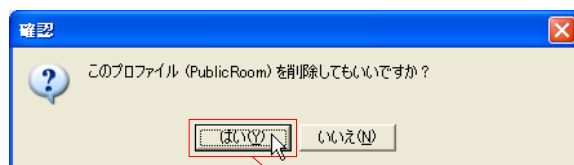
## 6 . プロファイルを削除する方法

プロファイルを削除する場合は以下の手順をご参照ください。

クライアントユーティリティのメイン画面で、削除するプロファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。



確認のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてください。



「はい」ボタンをクリック

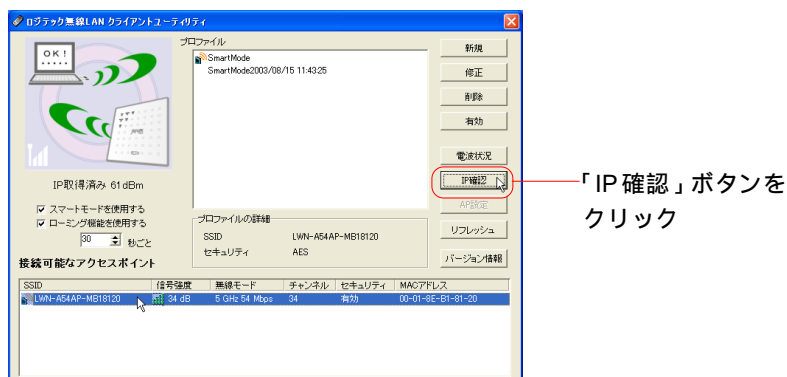
以上でプロファイルの削除は完了です。

### ご注意

- ・ 現在有効になっているプロファイルは削除できません。いったん他のプロファイルを有効にしてから、該当のプロファイルを削除してください。
- ・ プロファイルを全て削除することはできません。プロファイル欄には常に1つ以上のプロファイルが存在します。

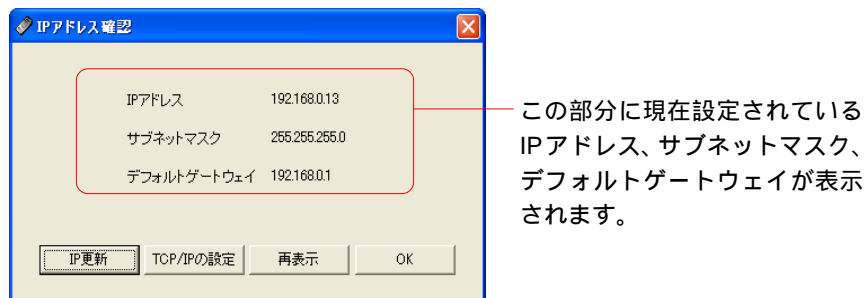
## 7 . TCP/IP の設定を確認する方法

ユーティリティ上から TCP/IP の設定を確認するには、クライアントユーティリティのメイン画面で、IP 確認ボタンをクリックしてください。



IP アドレス確認画面が表示されます。確認が終了したら「OK」ボタンをクリックしてください。

アクセスポイントとの通信が確立しているにもかかわらず、ネットワークに接続できない場合は、TCP/IP の設定が正しく行われていない可能性があります。「TCP/IP 設定」ボタンをクリックしてください (TCP/IP の設定は次ページをご参照ください)。

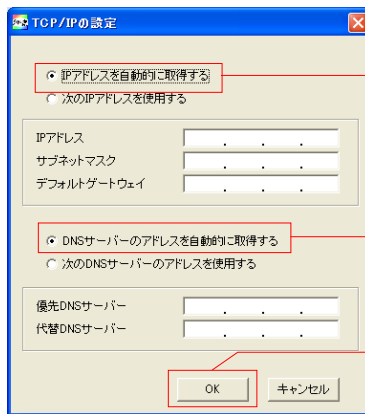


### 各ボタンの機能

- ・「IP更新」ボタンをクリックすると、ネットワーク内の DHCP サーバへ問い合わせを行い、IP アドレスを再取得します。ネットワーク内に DHCP サーバが存在せず、手動にて設定を行っている場合は、このボタンは機能しません。
- ・「TCP/IP の設定」ボタンをクリックすると、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバの設定画面が表示されます。
- ・「再表示」ボタンをクリックするとパソコンに設定されている IP アドレスの設定を再確認します。
- ・「OK」ボタンをクリックすると、設定を保存してメインウィンドウに戻ります。

## TCP/IP の設定

IPアドレスの確認画面から「TCP/IPの設定」ボタンをクリックすると、以下のTCP/IPの設定画面が表示されます。アクセスポイントが接続されている有線ネットワーク内にDHCPサーバがある場合には「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを「ON」にして「OK」ボタンをクリックしてください。



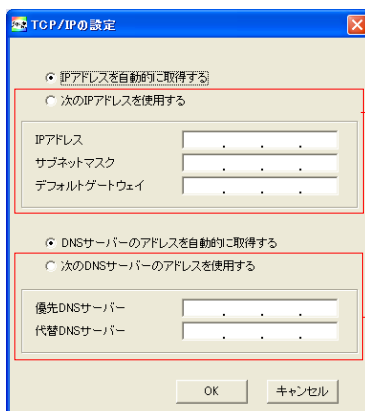
1. DHCPサーバがある場合はこの2つのラジオボタンをONにして、

2. 「OK」ボタンをクリック

画面はWindows XPの例です



DHCPサーバがない場合は、接続先の機器のマニュアルを参照して、手動で「IPアドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」および「DNSサーバ」のアドレスを入力してください。ネットワーク管理者がいる場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。ここでの設定はネットワーク内の環境により異なります。



DHCPサーバがない場合はここに必要な情報を入力

画面はWindows XPの例です



### ご注意

ユーティリティ上からTCP/IPの設定を行ってもうまく設定が反映されない場合は、OS標準のTCP/IPの設定を行ってください。詳しくは次ページをご参照ください。

## OS 標準の機能から TCP/IP の設定を行う場合

### Windows XP の場合

「スタート」 - 「接続」から「ワイヤレスネットワーク接続」を選択し、表示される画面で「プロパティ」または、「詳細設定」ボタンをクリックしてください。

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブを選択します。

「全般」タブ内で「インターネットプロトコル(TCP/IP)」という項目をクリックして選択状態にし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されるので、全般タブで必要な設定を行ってください。(設定内容はユーティリティから行ったものと同じです。)

### Windows 2000 の場合

「スタート」 - 「設定」より「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックし、表示される画面から「ローカルエリア接続」のアイコンを選択して右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択してください。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されるので、コンポーネントリストから「インターネットプロトコル(TCP/IP)」という項目をクリックして選択状態にし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されるので、全般タブで必要な設定を行ってください。(設定内容はユーティリティから行ったものと同じです。)

### Windows Me、98 の場合

「スタート」ボタンから「設定」を選択し「コントロールパネル」をクリックします。「コントロールパネル」が表示されたら一覧の中から「ネットワーク」を選択してください。

「ネットワークの設定」画面が表示されます。「TCP/IP -> \*\*\*\*」(\*\*\*\*には本製品の型番が入ります。また、\*\*\*\*の部分は表示されない場合もあります)をクリックして選択状態にしてから「プロパティ」ボタンをクリックしてください。

ここで「TCP/IP」という項目が表示されない場合は、次ページを参照してTCP/IPプロトコルを追加してください。

「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されるので、IP アドレスタブにて必要な設定を行ってください。また、必要に応じて「ゲートウェイ」タブ、「DNS設定」タブからも設定を行います。(設定内容はユーティリティから行ったものと同じです。)

## Windows Me、98 で TCP/IP プロトコルを追加する方法

「スタート」ボタンから「設定」を選択し「コントロールパネル」から「ネットワーク」を選択し、「ネットワークの設定」画面が表示されたら、「現在のネットワークコンポーネント」欄の下にある「追加」ボタンをクリックしてください。

「ネットワークコンポーネントの選択」画面が表示されるので、「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。ここで「製造元」に「Microsoft」、「ネットワークプロトコル」に「TCP/IP」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

「ネットワークの設定」画面に戻りますので、「TCP/IP -> \*\*\*\*」(\*\*\*\*には本製品の型番が入ります。また、\*\*\*\*の部分は表示されない場合もあります)が登録されていることを確認してください。



## 8 . 本製品の取り外し

---

本製品を取り外す場合、クライアントユーティリティを終了させ、タスクトレイに表示されている PC カードのアイコン (  または  ) をクリックして表示されるメッセージから「Logitech LWN-A54CBS Cardbus Wireless Network Adapter」が含まれる項目をクリックしてください。

Logitech LWN-A54CBS Cardbus Wireless Network Adapter を安全に取り外します

Windows XP で表示されるメッセージ

Logitech LWN-A54CBS Cardbus Wireless Network Adapter の停止

Windows Me で表示されるメッセージ

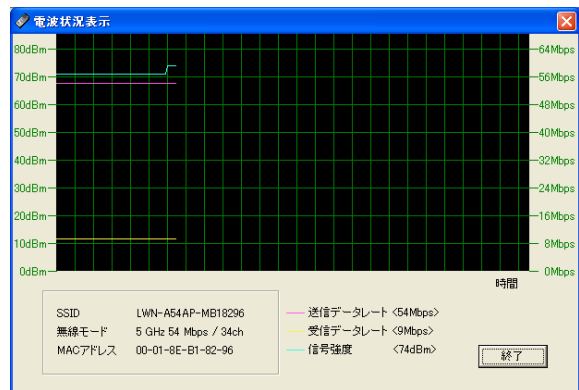
取り外しのメッセージが表示されたら、取り外し可能となります。

## 9 . 補足説明

### 電波状況の確認

クライアントユーティリティのメイン画面で、「電波状況」ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。ここでは送信データレート、受信データレート、信号強度がグラフで確認できます。

送受信データレートの単位は右軸に、  
信号強度は左軸に表示されます。



### リフレッシュ

クライアントユーティリティのメイン画面で、「リフレッシュ」ボタンをクリックすると、無線電波をリセットし、再度電波状態を確認します。

### バージョン情報

クライアントユーティリティのメイン画面で、「バージョン情報」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。ここではユーティリティのバージョンが確認できます。



## 本無線 LAN カード (LWN-A54CBS) で行なうローミング機能とは

ユーティリティを使用して複数のアクセスポイントの設定情報をプロファイルとして登録しておき、接続していたアクセスポイントとの通信が切断されたときに、自動的にプロファイルを選択しなおして別のアクセスポイントへ接続し直して、通信を継続する機能です。(クライアントローミング機能)

## クライアントローミング機能の設定例

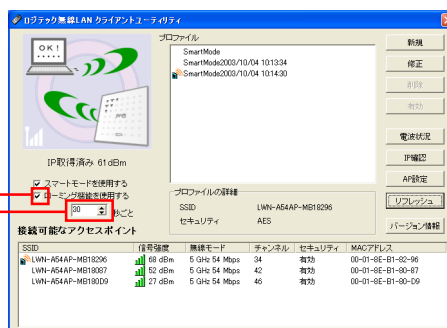
前述したように、クライアントローミングでは、現在接続しているアクセスポイントとの通信が切断されたときに、登録されているプロファイルを逐次選択し、通信可能なアクセスポイントを接続先とするプロファイルがあった場合に、そのプロファイルを使用して通信を継続します。そのため、以下のような手順で、プロファイルをあらかじめ登録しておく必要があります。

1. 任意の弊社製アクセスポイント (API) でスマート認証を行います。
2. クライアントパソコンに無線LANカードを装着すると、プロファイルが自動的に登録されます。
3. クライアントパソコンからカードを取り外して別の弊社製アクセスポイント (AP2) でスマート認証を行います。
4. クライアントローミングを行いたい弊社製アクセスポイントの数だけ、2～3を繰り返します。
5. 弊社製以外の無線アクセスポイントに接続する場合は、カードを装着した状態で、「3. 新規に手動で通信設定を行う場合」を参考にしてプロファイルを登録します。
6. クライアントユーティリティを起動して、「ローミング機能を使用する」のチェックボックスをONにして、プロファイルに登録されているアクセスポイントを検索する時間 (\*) を5秒 (Windows Meでは10秒) から120秒の範囲で設定します。以上で設定は終了です。これで、クライアントローミングが可能となります。

\*この場合の時間は、1つの設定 (プロファイル) あたりの時間です。例えば、プロファイルがA,B,Cと3つある状態でこの時間を10秒に設定した場合は、10秒間Aというプロファイルに接続を試み続け、接続できない場合はBへ10秒間接続を試み、だめな場合はCというプロファイルへの接続を試みます。

ここにチェックを入れます。

検索する時間を指定します。



### 参考：AP クローン機能によるローミング

弊社製アクセスポイント使用時には、アクセスポイントの設定情報をダウンロードして別の弊社製アクセスポイントにコピーし、同じ設定情報を持つアクセスポイント間をクライアントが移動しても同じプロファイルを使用して通信が途切れないようにする(注)、APクローンによるローミング機能もご利用できます。APクローンによるローミングを使用すると、クライアントローミングと比較して、設定の手間を低減できます。また、電波の到達範囲に切れ目がないようにアクセスポイントを設置すれば通信が切断されずに通信を継続できます。

注：ただし、無線レベルで電波を拾えなくなれば、一時的に通信は途切れます。

## スマート認証機能とは

スマート認証とは、弊社製アクセスポイント(LWN-A54APS)から無線LANカードに、SSID、暗号モードの情報、APの公開鍵、カード用秘密鍵を発行・配布し、カード側からアクセスポイントにMACアドレスを送ることをいいます。これらの情報の受け渡しは、弊社製アクセスポイントに無線LANカードを直接セットして行います。ユーザはスマート認証を行った無線LANカードをパソコンにセットするだけで、設定を意識せずにセキュアな通信を行うことができます。(スマート認証の通信開始時にはデータリンク層において公開鍵と秘密鍵を使用して、チャレンジレスポンス方式でアクセスポイントと無線LANクライアントの相互認証を行う弊社独自のLDLS(Logitec Datalink Layer Security)認証を行います。)

LDLS認証とはアクセスポイントが無線LANカードに公開鍵およびローカルな電子証明書を発行し、この鍵を元にアクセスポイントとクライアントの相互認証を行う仕組みです。この認証をデータリンク層で行うためDLS認証と呼びます。この認証方式はロジテック独自のものであります。

また別売の指紋認証アダプタを使用し、指紋による認証を加えた指紋認証(BIO)認証モードをご使用の場合も「スマートモードを使用する」のチェックをONにしておきます。

指紋認証(BIO)認証モードとはネットワーク管理者の指紋を認証に使用し、管理者が許可したユーザーのみネットワークに参加できるようにする通信モードです。スマート認証モードのセキュリティに加え、指紋認証による制限を加えるので、より高度なセキュリティが確保されます。指紋認証(BIO)認証モードを使用するには別売の弊社製USB指紋認証アダプタ(LWN-BF16U)が必要です。

## ソフトウェアの最新情報について

本製品付属のソフトウェアの最新情報につきましては弊社ホームページをご参照ください。

弊社ホームページ：<http://www.logitec.co.jp/>

## 10. アンインストール

クライアントユーティリティをアンインストールする場合は、以下の手順をご参照ください。

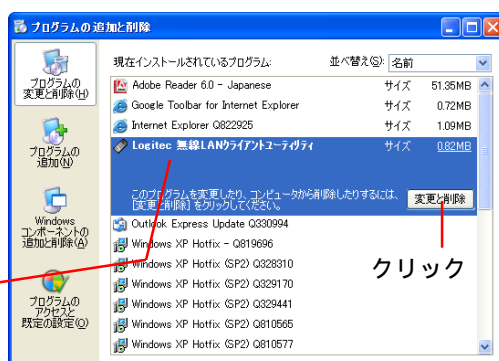
Windows XP の場合

「スタート」 - 「コントロールパネル」を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されますので、「プログラムの追加と削除」をクリックしてください。

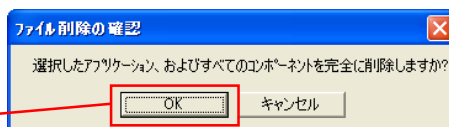
「プログラムの追加と削除」ウィンドウが表示されるので、ウィンドウ左側のタグで「プログラムの変更と削除」が選択されていることを確認して、「現在インストールされているプログラム」より、「Logitech 無線 LAN クライアントユーティリティ」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックしてください。

選択



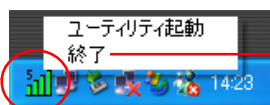
「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

「OK」をクリック

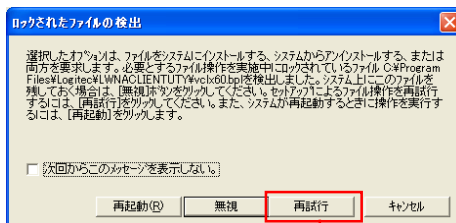


アンインストールが実行されます。途中で「ロックされたファイルの検出」ウィンドウが表示されたら、タスクトレイにあるクライアントユーティリティのアイコンを終了して「再試行」ボタンをクリックしてください。

クライアントユーティリティのアイコン



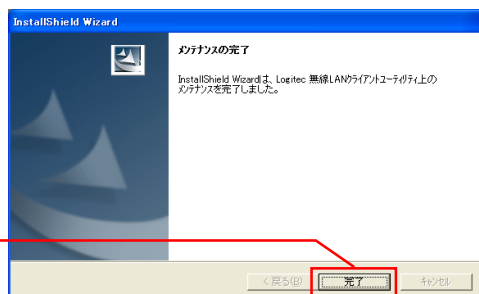
1. 終了を選択



2. 「再試行」をクリック

アンインストールが終了したら、「メンテナンスの完了」ウィンドウが表示されますので「完了」ボタンをクリックしてください。

「完了」をクリック



## Windows Me/98 の場合

「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウから「アプリケーションの追加と削除」のアイコンをダブルクリックします。

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウで「インストールと削除」タブが選択されていることを確認して、表示されているリストの中から、「Logitech 無線 LAN クライアントユーティリティ」を選択し、「追加と削除」ボタンをクリックします。

「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

アンインストールが実行されます。途中で「ロックされたファイルの検出」ウィンドウが表示されたら、タスクトレイにあるクライアントユーティリティのアイコンを終了して「再試行」ボタンをクリックしてください。

アンインストールが終了したら、「メンテナンスの完了」ウィンドウが表示されますので「完了」ボタンをクリックしてください。

## Windows 2000 の場合

「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」と選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウから「アプリケーションの追加と削除」のアイコンをダブルクリックします。

「アプリケーションの追加と削除」ウィンドウが起動したら、左側のタグで「プログラムの変更と削除」が選択されていることを確認して、「現在インストールされているプログラム」より、「Logitech 無線 LAN クライアントユーティリティ」を選択し、「変更/削除」ボタンをクリックしてください。

「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

アンインストールが実行されます。途中で「ロックされたファイルの検出」ウィンドウが表示されたら、タスクトレイにあるクライアントユーティリティのアイコンを終了して「再試行」ボタンをクリックしてください。

アンインストールが終了したら、「メンテナンスの完了」ウィンドウが表示されますので「完了」ボタンをクリックしてください。

## 著作権等について

---

本書の著作権は、ロジテック株式会社に帰属します。本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡願います。

- ・ 本製品はOpenSSL Toolkitを使用するためにOpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアを含みます。( <http://www.openssl.org/> )
- ・ 本製品は Eric Young ( [eay@cryptsoft.com](mailto:eay@cryptsoft.com) ) によって書かれた暗号ソフトウェアを含んでいます。

## OpenSSL License

/\* Copyright (c) 1998-2000 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact [openssl-core@openssl.org](mailto:openssl-core@openssl.org).

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

\* This product includes cryptographic software written by Eric Young ([eay@cryptsoft.com](mailto:eay@cryptsoft.com)). This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)).

## Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"

The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

"This product includes software written by Tim Hudson(tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE

ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]